

# 発達領域における IT活用支援⑥

## パソコンを障害に合わせて 使うには —アクセシビリティ機能②

Seiji MURAMOTO

村元 聖治\*

### 1 はじめに

前回、アクセシビリティ機能についての説明や、具体的な障害に対応した設定とそれに対応するアクセシビリティ機能の一部を、Windows 7を用いて紹介した。今回は、その他のアクセシビリティ機能について、より詳しく紹介していく。

### 2 目的別の設定と対応する アクセシビリティ機能

#### コンピューターを見やすくします

##### ●ハイ コントラスト

通常の画面では、まぶしく感じたりして文字が見えにくい場合もある。「ハイ コントラスト」を設定すると、まぶしさや画面のちらつきを抑えることができる。見え方は個人で異なるため、「ハイ コントラストのテーマを選択します」をクリックし、見やすいテーマを選択するとよい(図1)。

##### ●拡大鏡

Windows 7で大きく改善した機能の1つに、「拡大鏡」が挙げられる。「コンピューターの簡単操作センター」から起動することもできるが、最も簡単なのは[Windows]キーと[+]キーを同時に押す

方法だ。表示方法は「全画面表示」「レンズ」「固定」の3種類(図2)。

「全画面表示」は画面全体を拡大表示し、マウスポインターを動かすことで画面上を移動することができる。「レンズ」は、マウスポインターの周囲を、虫眼鏡で拡大したように表示させることができる。「固定」は、固定したウィンドウに画面を拡大して表示させることができる。

#### マウスやキーボードを使わずにコンピューターを使用します

##### ●スクリーンキーボード

[スクリーンキーボードを開始します]をクリックすると、画面上にキーボードが現れる。この「スクリーンキーボード」上のキーをマウスでクリックしたり、設定時間キーの画像にマウスポインターを当てることで文字を入力できる(図3)。さらに、これまでと違ってWindows 7では、「スクリーンキーボード」の大きさが自由に変更できるようになった。

##### ●音声認識

音声認識を利用するには「マイク」が必要だ。できれば、ヘッドホンとマイクが一体になっている「ヘッドセット」タイプを用意の方がよいだろう。マイクが正しくパソコンに接続認識されていることを確認したら、次に「音声認識の開始」をクリック



図1 「ハイ コントラスト」のテーマを選択する  
通常の配色では見えにくい場合、「ハイ コントラスト」を設定すると見やすくなることもある。

\*八女子ハビリ病院，作業療法士  
0917-0359/13/¥400/論文/JCOPY



図 2 「拡大鏡」の表示種別

拡大鏡ウィンドウにある「表示」ドロップダウンボタンにより、「全画面表示」「レンズ」「固定」から、表示方法を選択できる。「レンズ」では、テキストトップは標準倍率になり、マウスカーソルの周囲だけが拡大する。「固定」は、固定ウィンドウの中に拡大した画面が表示される。

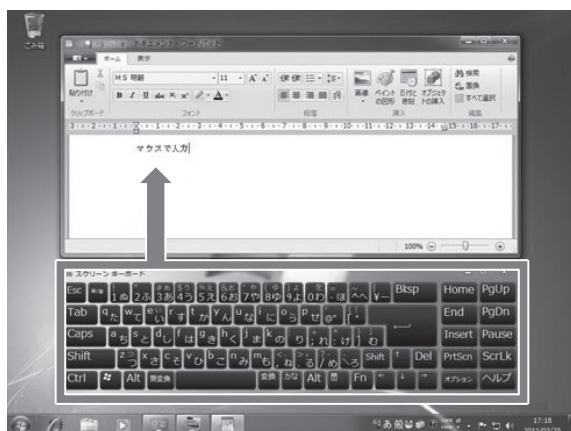


図 3 「スクリーンキーボード」を起動する

表示されたキーをマウスでクリックしたり、タッチパネルで触れたりして、文字をアプリケーションに入力できる。

し、「音声認識のセットアップ」を行っていく。セットアップはウィザードになっており、マイクのセットアップ、各種オプションの設定、チュートリアル順に設定していく。

ここまでの設定に 30 分以上はかかる。ここからは実際に音声認識でパソコン操作ができるようになる。マウスを任意の位置に移動したり、クリックする場合は、「マウスグリッド」と発声して画面上にグリッドを表示させる (図 4)。

音声入力で便利なのが「番号を表示」コマンドだ。たとえば、メモ帳の「ファイル」メニューをクリックしたい場合は、メモ帳がアクティブな状態で「番号を表示」と発声する。すると、ウィンドウ内が青く反転し、番号が表示される (図 5)。

## マウスを使いやすくします

### ●マウス設定

左右ボタンの切り替えやダブルクリックの速度調整、マウスポインターの色や形の変更、ポインターの速度や軌跡の調整など、マウス操作全般のカスタマイズができる。

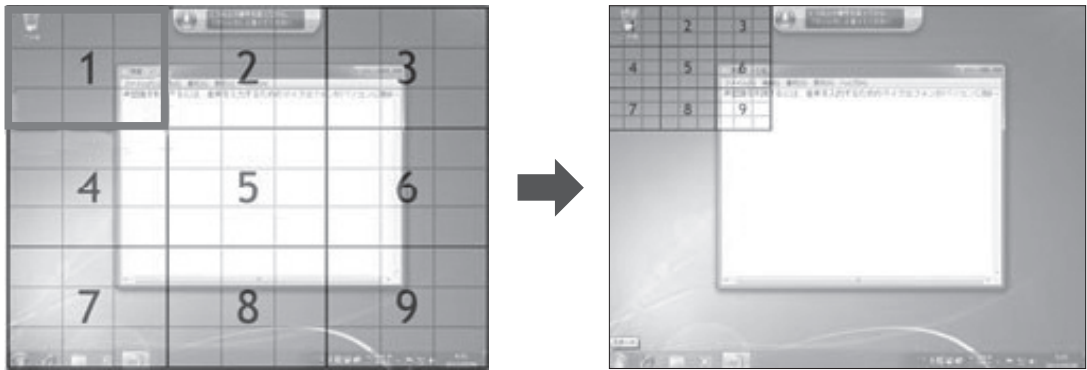


図4 デスクトップの任意の場所でクリックする

デスクトップの任意の場所でクリックするには、「マウスグリッド」と発声し、番号のついたグリッド線を表示させる。マウスを移動したい場所にある番号を発声すると、その部分がさらに細かいグリッドになるので、同じ作業を繰り返して目的の場所を絞り込む。最後に「クリック」と発声すると、その場所がクリックされる。

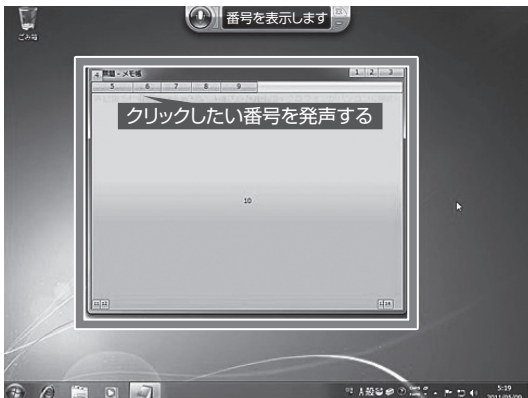


図5 「番号を表示する」コマンド

アクティブなウィンドウなどで「番号を表示」と発声すると、ボタンやメニュー、ウィンドウの領域が青くなり、それぞれに番号が表示される。クリックしたい領域の番号を発声すると、その場所でクリックされる。

### キーボードを使いやすくします

#### ●マウスキー

麻痺が軽く、キーボード操作はできても、不随意運動が大きいなどでマウス操作が難しい場合、テンキーを使ってマウスポインターを操作する「マウスキー」が有効となる。

#### ●固定キー

Windows では、複数のキーを同時に押す操作が求められる時がある。しかし、2つ以上のキーを同時

に押すことができない場合は「固定キー」機能が役立つ。

#### ●切り替えキー

Caps Lock, Num Lock または Scroll Lock を押した時に、音を鳴らすことで誤ったキー操作を防ぐ。

#### ●フィルターキー

麻痺があることでキーボードの上を滑るようにしてキーを打つ、不随意運動があるためにキーボードに誤って触れてしまうなどの場合、一定時間キーを押し続けないと入力されないようにする「フィルターキー」が有効だ。

### サウンドの代わりにテキストまたは画像を使用します

音が聞こえにくい、もしくはまったく聞こえない場合、音声による情報を視覚的な情報にして表示することができる。

### コンピューターでの作業に集中しやすくします

パソコン操作に集中し、作業をスムーズに進められるさまざまな機能を設定できる。

## 3 おわりに

今回は、これらのアクセシビリティ機能を用いて支援した事例を紹介する。